

地方都市視察報告書

福祉健康委員会

1 実施日 令和5年11月2日(木)

2 視察地 兵庫県神戸市

【市の概要】

(1) 面積 557.02km²

(2) 人口・世帯数

(令和5年10月1日現在)

○人口 1,499,887人

○世帯数 745,656世帯



(3) 神戸市は、1889年(明治22年)に市制を施行し、古くから港町として栄えてきた国際都市である。兵庫県南部に位置する県庁所在地であり、約150万人の人口を有する政令指定都市として、大阪市や京都市と共に、京阪神大都市圏における中心を担っている。

海と山の迫る東西に細長い市街地は9つの区からなり、南には瀬戸内海、北には六甲の山々や里山農村地域等、豊かな自然に恵まれ多彩な魅力に溢れている。また、日本を代表する国際貿易港である神戸港や、都心に近く利便性の高い神戸空港、市内には新幹線、JR線や私鉄、地下鉄が通るなど、陸・海・空の交通ネットワークを有している。

開港以来育まれてきた国際性や多様性、芸術・文化が人を惹きつけ、日本有数の観光地として、異国情緒ある街並みや名湯・有馬温泉、神戸ビーフや神戸の洋菓子などを求めて国内外から多くの人々が訪れている。

1995年に発生した阪神・淡路大震災により甚大な被害を受けたが、官・民一体となって復興に取り組み、着実に復興を遂げ、発展を続けている。

3 視察項目・内容

認知症対策神戸モデルについて及び福祉乗車証(福祉パス)について

4 視察参加者

【委員】

のづけん委員長	高月まな副委員長	石川孝一委員
かなくぼなな子委員	渡辺みちたか委員	田中ゆきえ委員
豊島あつし委員	川村のりあき委員	中村しんいち委員

【随行】

議会事務局議事係 設楽 拓也 議会事務局調査管理係 長谷川 雅章

5 視察結果・所感

神戸市では「認知症対策神戸モデル」と「福祉乗車証（福祉パス）」に関して視察を行った。

認知症対策神戸モデルでは、近年問題となっている若年性認知症に対応するため、市内の65歳以上の人々にあまねく認知症診断の通知を行うなど、非常に大胆な手法を用いた事業を行っている。介護保険における認知症認定などとの整合性といった問題は残るものの、これからの高齢化社会に向けて先駆け的な施策であると考えられる。

また、福祉乗車証の事業では、神戸市内の多様な交通インフラに対して、障害者と高齢者の2つの層を対象にした助成制度であるが、その実情を伺うと、当初危惧されていた不正利用などの問題は、それほど大きくなく、おおむね順調に制度利用が行われているとのことであった。

特に高齢者向けの福祉乗車証事業では、これを単に福祉の観点のみではなく、高齢者の健康推進事業と位置づけ、積極的に推進されていることは印象的であった。

新宿区にはこれに類するものとして、東京都が実施している「シルバーパス」があるが、新宿区独自の地域交通の構築が模索されている現状、さまざまな点において参照すべき取り組みが多くあった。

6 主な質疑項目

- (1) 若年性認知症と診断された方へのサポートについて
- (2) 認知症診断助成制度の導入前後での成果比較について
- (3) 事業評価の分析について
- (4) 認知症助成制度と事故救済制度から構成される認知症神戸モデルの予算内訳について
- (5) 認知症診断助成制度の予算規模と実績について
- (6) 若年性認知症への対策について
- (7) 福祉乗車証の使用方法和不正使用の管理・対応について
- (8) 自己負担ゼロで認知症診断を受診できることについて

7 その他

【共同視察者】

障害者福祉課長 渡辺 隆介
高齢者支援課長 新川 金七

